

2024年3月期 第2四半期 決算説明会

2023年11月10日(金)



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

重要な注意

- この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。
- したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

出席者

- | | |
|--------------|-------|
| ① 代表取締役社長 | 山口 隆 |
| ② 代表取締役専務取締役 | 丸尾 篤嗣 |
| ③ 代表取締役専務取締役 | 山口 惣大 |

2024年3月期 第2四半期 連結決算概要



あすか製薬ホールディングス株式会社
代表取締役専務取締役 丸尾 篤嗣

2024年3月期 第2四半期 決算ハイライト

売上高

✓ **316億円、前同比4.9%増加**

医療用医薬品事業が堅調に推移し、過去最高の売上高を更新

売上原価

✓ **164億円、売上原価率 前同比0.6ポイント改善**

先発医薬品である「レルミナ」「チラーヂン」「リフキシマ」の伸長による製品ミックス改善

販売費及び 一般管理費

✓ **121億円、売上高販管費率 前同比0.4ポイント上昇**

経済活動の正常化に伴う事業活動費用の増加が影響

営業利益

✓ **30億円、前同比6.1%増加**

研究開発費等、販管費の増加はあったものの、売上、売上総利益の増加により増益

通期見通し

✓ **業績予想を上方修正（9月25日公表）**

投資有価証券売却益（特別利益）の計上により当期純利益を上方修正

損益計算書（連結）

単位：百万円	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	30,172	31,648	1,475	4.9%
売上原価	15,870	16,461	590	3.7%
売上総利益	14,301	15,186	884	6.2%
販売費及び一般管理費	11,422	12,130	708	6.2%
営業利益	2,879	3,055	176	6.1%
経常利益	2,987	3,096	108	3.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,346	4,129	1,783	76.0%

事業別売上高（連結）

単位：百万円	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	26,851	28,404	89.7%	1,553	5.8%
アニマルヘルス事業	3,234	3,162	10.0%	△71	△2.2%
その他事業	86	80	0.3%	△5	△6.6%
合計	30,172	31,648	100.0%	1,475	4.9%

主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期		2024年3月期		ご参考	特記事項
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)	期初計画	
内科	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	5,477	4,952	△9.6%	9,438	△12.0%	9,268	薬価はダウンしたが数量ベースを維持
	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	3,921	4,000	2.0%	7,823	1.2%	7,833	想定通りの進捗
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	2,757	2,997	8.7%	5,671	5.1%	5,578	ガイドライン浸透とともに堅調に推移
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	761	776	1.9%	1,515	1.9%	1,513	想定通りの進捗
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	465	430	△7.4%	844	△6.2%	844	想定通りの進捗
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	4,524	5,186	14.6%	10,234	15.8%	10,128	子宮内膜症での浸透活動を継続
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	1,279	2,909	127.4%	5,370	46.3%	4,165	想定以上の大幅な進捗
	AG	月経困難症治療剤 フリウエル	1,765	1,663	△5.8%	3,329	△4.6%	3,407	数量増だが当初想定よりは下回る
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	569	876	53.8%	1,462	16.8%	1,363	出荷制限解除、外部要因等により伸長
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	420	367	△12.6%	713	△9.0%	799	他社品への流出による減少
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	309	355	14.9%	711	13.4%	750	薬価上昇分が数値に反映
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	2,619	2,321	△11.4%	4,494	△10.1%	4,828	期初想定より他剤への切り替えが継続

※1 配合剤を含む

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

主要事業分野売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

事業分野	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期		2024年3月期計画	
	実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	2,062	1,873	△9.1	3,484	△16.1%
動物用医薬品	1,081	1,189	10.0	2,415	1.9%

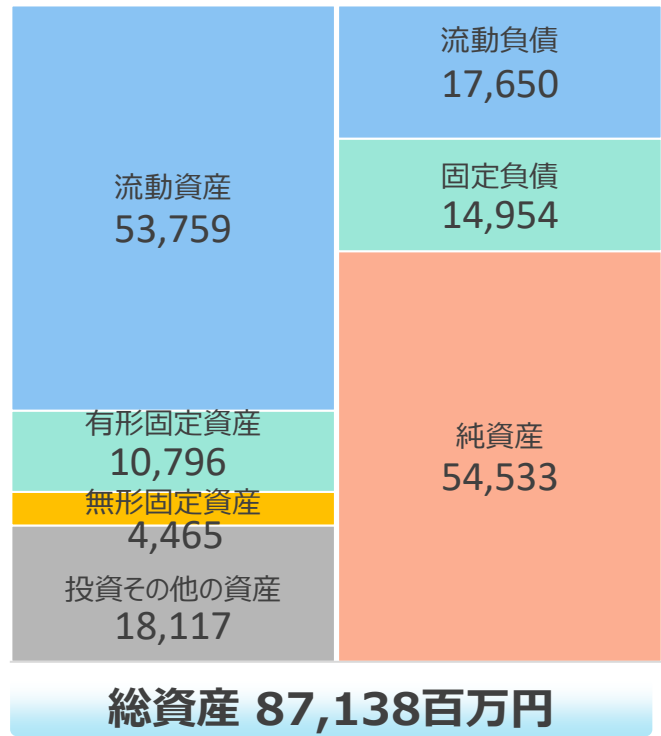
主な要因

- 飼料添加物の市況は下げ止まりの傾向とみられるが、先行きは不透明
- 動物用医薬品は昨年発売したトリロスタン錠「あすか」、ホルモン剤を中心に堅調に推移

貸借対照表（連結）

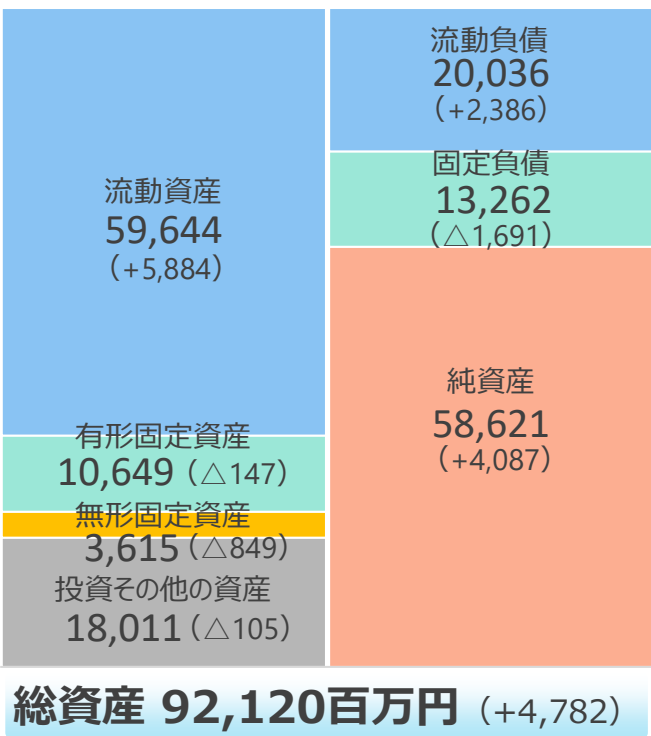
2023年 3月末

単位：百万円



2023年 9月末

単位：百万円



単位：百万円

資産の部

現金及び預金	+2,941
売掛金	+2,126
棚卸資産	+899
無形固定資産	△849

負債・純資産の部

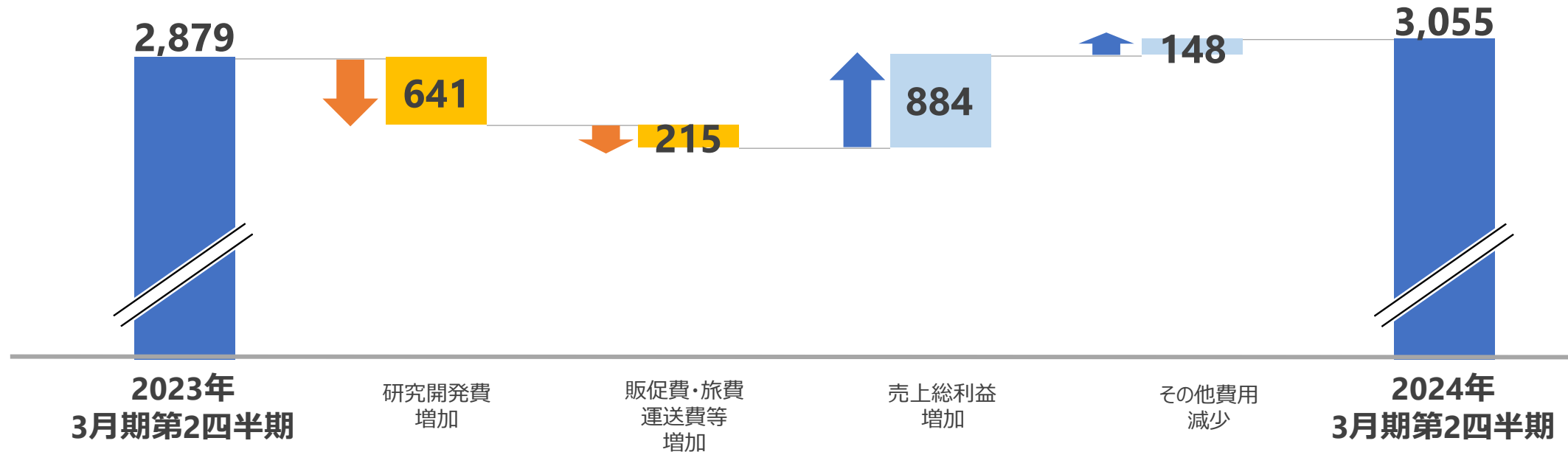
支払手形及び買掛金、電子記録債務	+1,587
未払法人税等	+730
退職給付に係る負債	+145
短期・長期借入金	△2,298
利益剰余金	+3,903

主な要因

- 資産の部 現金及び預金・売掛金・棚卸資産の増加、販売権償却による無形固定資産の減少
- 負債・純資産の部 支払手形及び買掛金、電子記録債務・未払法人税等・退職給付に係る負債の増加、短期・長期借入金の減少、利益剰余金の増加

営業利益増減分析（対2023年3月期第2四半期）

（単位：百万円）



主な要因

- 探索研究の活発化や臨床試験が進展していることにより研究開発費が増加
- 経済活動の正常化により、営業活動費用等の経費が増加
- 売上高増に伴う売上総利益の増加等により増益

2024年3月期業績予想（連結）

9月25日修正

単位：百万円	2023年3月期 実績	2024年3月期 期初予想	2024年3月期 予想（修正）	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	60,461	62,000	62,000	1,538	2.5%
営業利益	5,108	5,400	5,400	291	5.7%
経常利益	5,232	5,500	5,500	267	5.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,238	4,400	6,200	1,961	46.3%

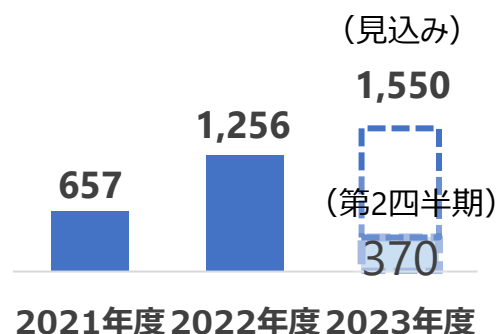
要因

- あすか製薬が保有する株式の売却により、投資有価証券売却益を特別利益として計上する見込みのため、親会社株主に帰属する当期純利益を上方修正

設備投資・減価償却費・研究開発費

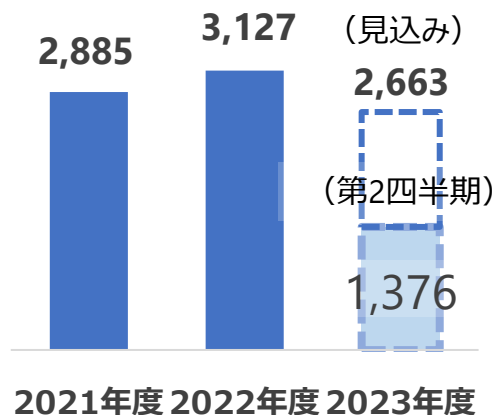
設備投資 (有形・ソフトウェア 編入ベース)

(百万円)



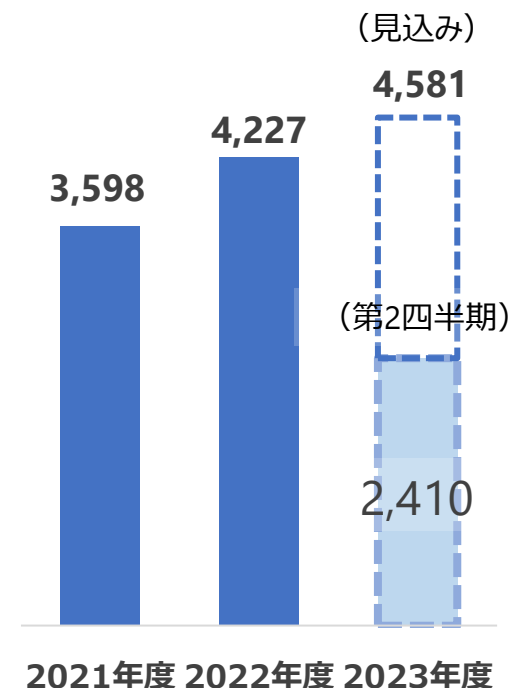
減価償却費 (有形・無形合計)

(百万円)



研究開発費

(百万円)



主な要因

設備投資 : いわき工場の一部改修等を予定しており、前年度を上回る見込み

減価償却費 : 生産設備および基幹システムの償却費の減少により前年度を下回る想定

研究開発費 : 探索研究の活発化や臨床試験が進展すること事で前年度を上回る見込み

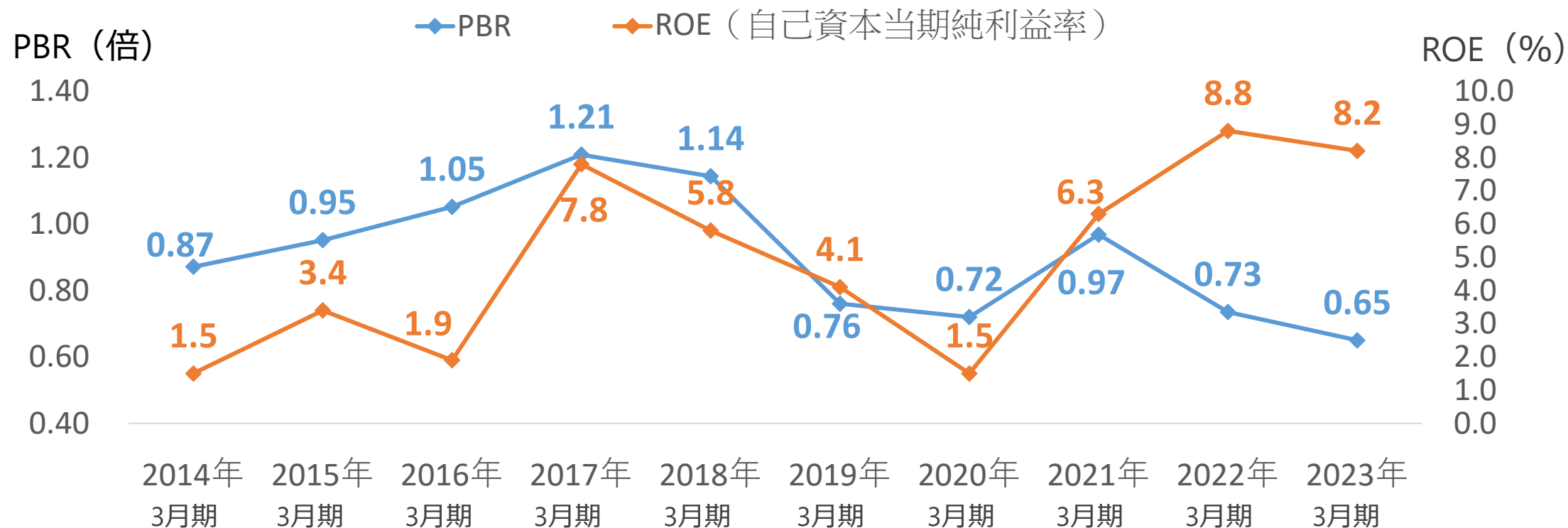
資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

事業環境について

毎年の薬価改定などの医療費抑制政策、医薬品の品質・供給問題、創薬難易度の上昇などによる市場環境の変化に加えて、ロシア・ウクライナ紛争を始めとする国際情勢の変化、世界的サプライチェーンの混乱、エネルギー、原材料、賃金などの上昇に伴うコスト増など社会環境の変化が重なり大変厳しい状況が継続。

**今後の見通しは不透明で、厳しい状況が続くと想定されるが、
外部環境の変化に対応し成長を目指していく**

PBRとROEの推移



PBR1倍割れの現状を踏まえ、現状評価を行い改善に向けた方針、具体的な取り組み等について役員会にて複数回の協議を実施

※2014-2023 3月期までのPBRは期末株価にて算出、2014年～2021年3月期はあすか製薬株式会社、
2022年3月期以降はあすか製薬ホールディングス株式会社

現状評価と改善に向けた方針

【現状評価】

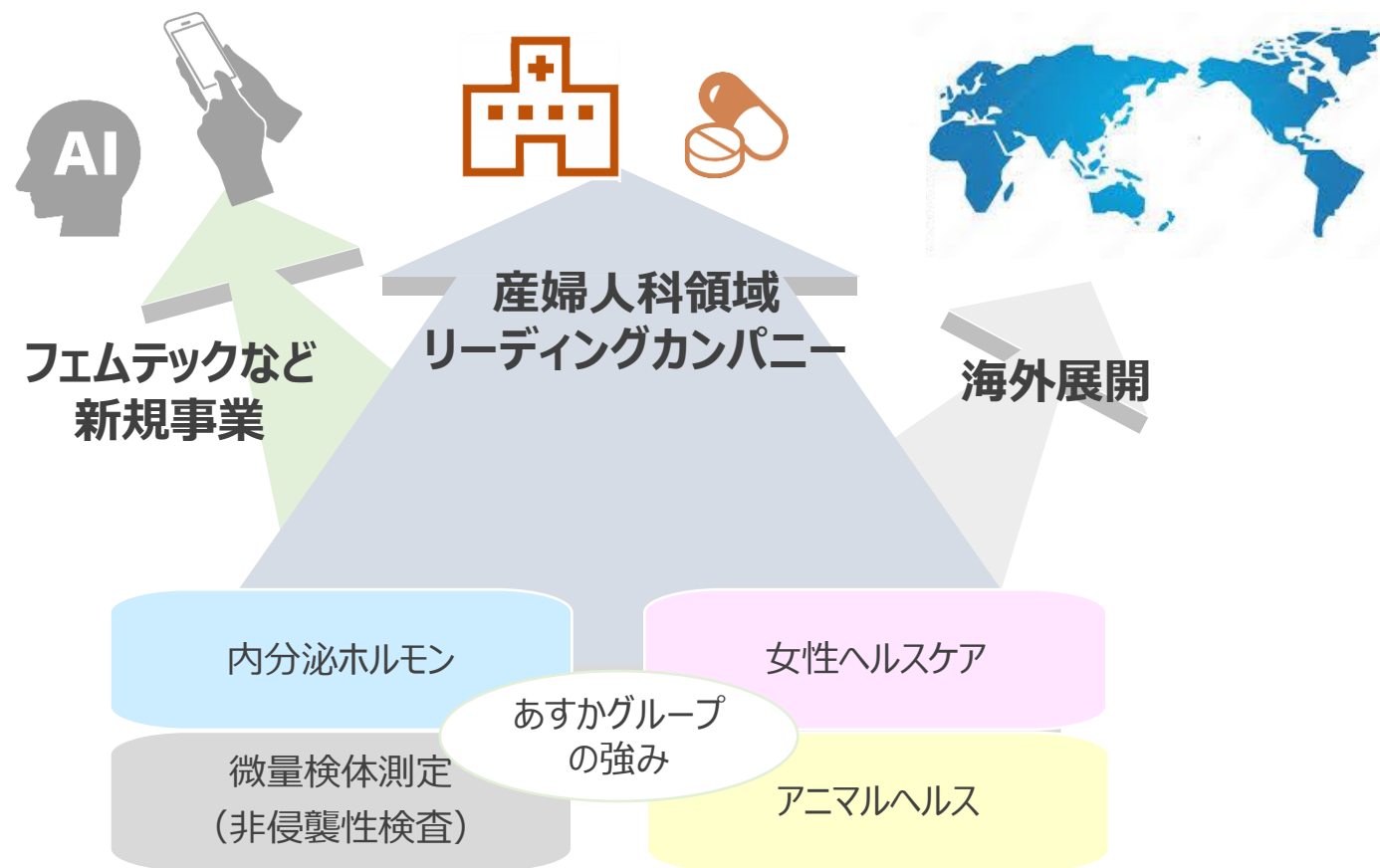
- ✓ 当社のROEは3期連続増益の中で8%台まで向上しており、中期経営計画最終年度である2026年3月期の目標値8%を超えている状況。
- ✓ 一方でPBRは2019年3月期以降1倍割れの状況が続いている。成長戦略の実現性が十分に理解されていないこと、また、具体的なキャッシュフローの開示がなく、成長戦略および株主還元において明確な方向性を示していなかったことが要因であると評価。

【改善に向けた方針】

市場評価の改善に向け、決算説明会やパイプライン説明会などの実施を通じ成長戦略を発信するIR活動を強化する。また、成長戦略の実現性を高めるとともに、株主の皆様への期待に応えるため、最適なキャッシュフローを検討し、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて対応をしていく。政策保有株式については純資産に占める比率を2024年3月末までに20%未満として、継続的な縮減を図っていく。

具体的な取り組み ① 成長戦略

トータルヘルスケアカンパニーへ



成長戦略の実施

- **医療用医薬品事業**
産婦人科領域でリーディングカンパニーとしての立ち位置を更に強化
- **新規事業の確立**
トータルヘルスケアカンパニーとしてフェムテックなど医療用医薬品周辺領域における新規事業の確立
- **海外展開**
成長を続ける東南アジア市場を中心に海外へ展開

具体的取り組み ① 成長戦略

将来の成長に向けたキャッシュアロケーション

FY2020-2022

(過去の内訳)

営業 CF 127億	成長投資 経営基盤の強化	67億
	負債返済 その他	45億
	株主還元*	16億
固定 資産 売却等 103億	手元資金増	102億

FY2023-2025

成長原資	投資の方向性		目的	配分
営業CF※ 200億 政策保有株式売却に伴うキャッシュ 30億	成長投資	医薬品事業	研究開発、事業開発強化によるパイプライン拡充	150億 +α
		新規分野	フェムテック、CVC、デジタルヘルス	
			検査、アニマルヘルス（CA）	
		海外展開	東南アジアでの事業確立	
	M&A	成長に必要な能力獲得		
	経営基盤の強化	生産設備更新・拡充		30-40億
		デジタルトランスフォーメーション		
人的資本への投資				
資金調達（+α）	株主還元		配当、自社株買い	30-40億

* 配当 + 自社株買い

※想定営業利益 + 減価償却費
+ 研究開発費（除く固定費）

✓ 自己資本比率 50%超は維持

参考 2023.3月	現金同等物 175億 有利子負債 126億
---------------	--------------------------

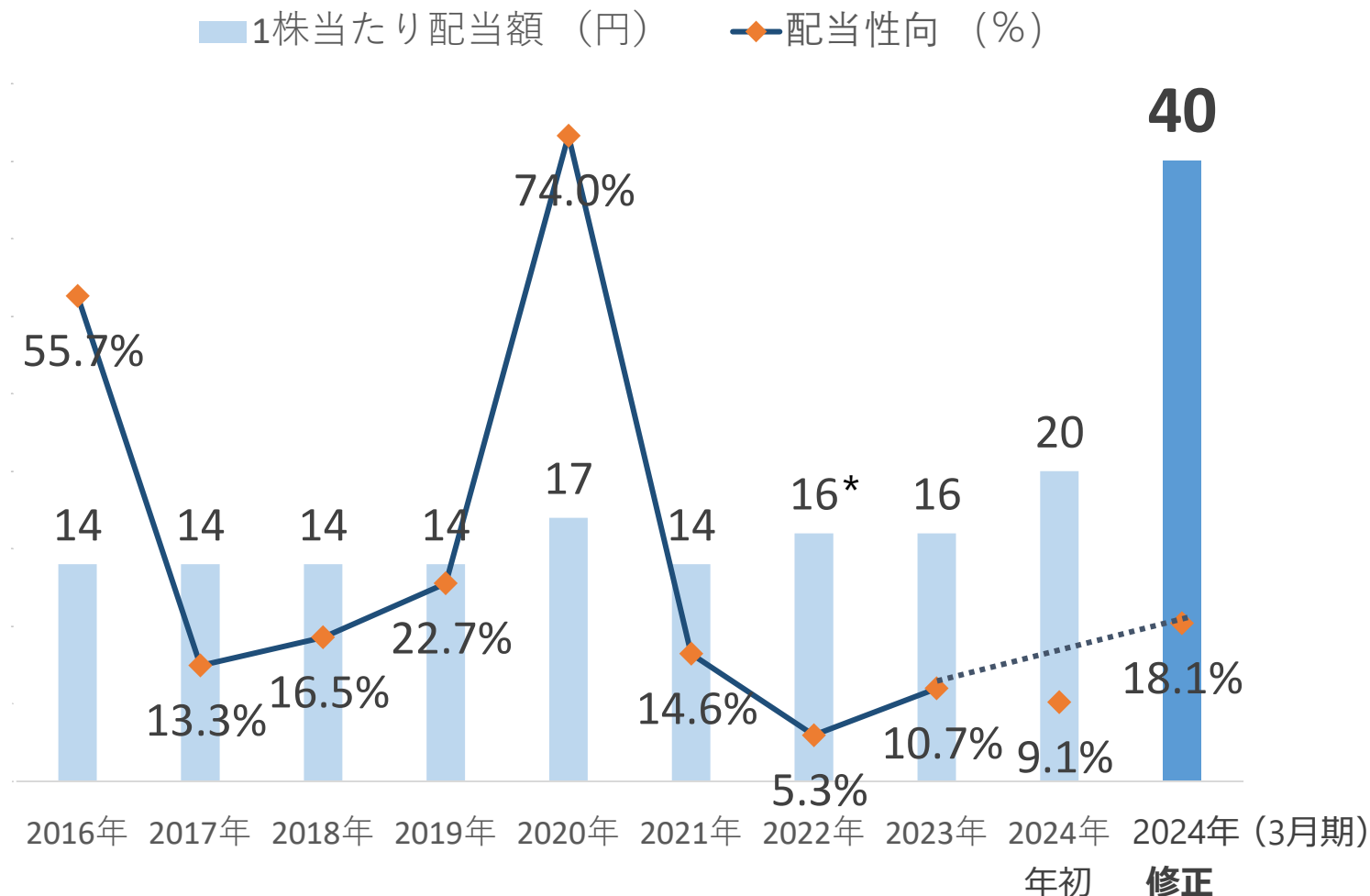
具体的取り組み ② 株主還元の強化

◆ 株主還元方針の見直し

- ✓ 2024年3月期は堅調な業績に加え、政策保有株式売却に伴う特別利益を勘案し、一株当たり配当金を40円に増配予定。
- ✓ 25年3月期以降は業績連動利益配分として、連結配当性向**30%**を目安とする。また、一株当たり配当金の下限は年間**30円**として、業績に連動した利益還元を行いつつ安定的な配当を維持する。

◆ 自己株式取得の検討

- ✓ 成長投資、配当水準、手元資金や株価水準などを総合的に勘案して機動的な対応を検討する。



*2022年3月期の中間配当は、その他資本剰余金からの配当であり、配当性向から除外して算出しています。

具体的取り組み ③ IR活動の強化

- ◆ 個人投資家、機関投資家向け決算説明会の強化
- ◆ 株主や投資家との建設的な対話（IRミーティング）の継続
- ◆ スモールミーティングやパイプライン説明会など、新たな対話の機会創出
- ◆ IRミーティングなどで得られた意見について、適宜取締役会に報告し、レビュー実施
- ◆ ホームページ掲載情報および、英訳対応の拡充による情報開示の充実



機関投資家向け決算説明会
(Web開催 5月、11月)



個人投資家向けIRセミナー開催
(2023年2月、8月 アーカイブ配信中)

個別IR面談回数
78回
延べ面談人数
98名

IR個別ミーティング(2023年3月期実績)

2024年3月期 中間報告



あすか製薬ホールディングス株式会社
代表取締役社長 山口 隆

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

PBR 1倍超の早期実現を目指すための具体的取り組み

1. 成長戦略（成長戦略の実施、キャッシュフローの最適化）
2. 株主還元の強化（2025年3月期以降の配当性向30%）
3. IR活動の強化（対話機会の創出、開示情報の充実）

上記3点に加えてガバナンス、ESG経営の推進などに積極的に取り組み
資本コストや株価を意識した経営を実現させる

様々な環境変化に対応し企業の成長に繋げていく

あすか製薬ホールディングス株式会社

2024年3月期 中間報告

中期経営計画2025の目指す姿

スペシャルティファーマを基盤とする
トータルヘルスケアカンパニーを目指す

中期経営計画2025 数値目標
売上高700億円 営業利益率8% ROE8%

外部環境の変化に対して「専門性」「生み出す力」「社会貢献」
を軸に「4つのビジョン」「7つの戦略」を立案し中期経営計画を策定

専門性

生み出す力

社会貢献

中期経営計画2025 3年目中間総括

中期経営計画2025 目標
売上高700億円 営業利益率8% ROE8%

中計 3年目

2024年3月期 第2四半期 実績
売上高316億円 営業利益率9.7%



年度目標 売上高 620億円

中期経営計画の達成に向けて着実に進捗

事業会社の成果

あすか製薬株式会社

- コーポレートベンチャーキャピタルファンド「あすかイノベーションファンド」設立
- フェムテック事業推進室を新設
- L-105（リファキシミン）製造販売承認事項一部変更承認申請（小児の用法用量）
- AKP-022（レルゴリクス配合剤）Ph I / IIを開始
- サスメド社と産婦人科領域における治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結

あすかアニマルヘルス株式会社

- 塩酸L-ヒスチジンが新規飼料添加物指定を受け水産養殖向けとして上市準備中

株式会社あすか製薬メディカル

- 非侵襲性検査事業の拡大（男性ホルモン検査キット、ストレスホルモン検査キットの発売）

各社が次につながる成果を獲得

あすか製薬株式会社

■ 主な取り組み

- ・スペシャリティ領域
- ・開発パイプライン
- ・海外事業の展開

あすか製薬株式会社

■ 主な取り組み

- ・スペシャリティ領域
- ・開発パイプライン
- ・海外事業の展開

女性を取り巻く環境の変化の一例と産婦人科市場

政治的環境の変化

- ✓ 内閣官房にすべての女性が輝く社会づくり本部の設置、女性版骨太の方針策定
- ✓ 婦人科特定疾患治療管理料の新設、不妊治療保険適用化

社会的環境の変化

- ✓ 女性活躍推進による女性就業者数の増加、女性管理職登用の増加
- ✓ 女性特有の健康課題への注目、メディア、SNSなどの露出回数増加によるヘルスリテラシーに対する意識の向上

技術的環境の変化

- ✓ 月経困難症治療や不妊治療など女性特有の疾患に関する医薬品開発、医療技術の進化
- ✓ インターネット普及による健康情報へのアクセス向上、オンライン診療拡大など医療アクセスの変化

女性を取り巻く様々な環境変化を受けて産婦人科市場は拡大

産婦人科市場：2010年 495億円^{※1} ➡ 2026年度（予測）**1,000億円^{※2}**

※1 株式会社富士経済2018-2019 医療用医薬品データブックNo.4 無断転載禁止

※2 2023保険適用1年後の産婦人科関連市場のトレンド分析と将来予測 無断転載禁止

あらゆる女性の健康課題解決に貢献する

注力する産婦人科領域において
リーディングカンパニーとして積極的な活動を行う

健康 ～ 未病 ～ 病気

女性の健康に
に関する情報発信
(Mint+)

フェムテック

医療用医薬品

健康⇔未病⇔病気 すべてのタイミングで女性の健康に寄り添う

女性のライフステージ別 産婦人科製品一覧

幼少期	思春期	性成熟期			更年期	老年期
	避妊薬	ドロスピノン（LF111）	アンジュ	ノルレボ	更年期障害	ホーリン
	鉄欠乏性貧血	リオナ（コ・プロ※）				
	性感染症	ラピッドエスピー（コ・プロ※）				
	子宮筋腫 子宮内膜症 月経困難症 月経異常	レルミナ ジェミーナ（コ・プロ） PMS/PMDD治療薬	リュープロレリン フリウエル（AG） プラノバール	AKP-022 ドロエチ配合錠 TRM-270		
	切迫流早産 陣痛促進	マグセント リトドリン	マグネゾール アトニン-O	メチルエルゴ メトリン		
	不妊症	HMG注用 ルテウム	uFSH注用 ゴナトロピン	セキソビット		

当社が開発中の産婦人科製品
LF111
AKP-022
TRM-270

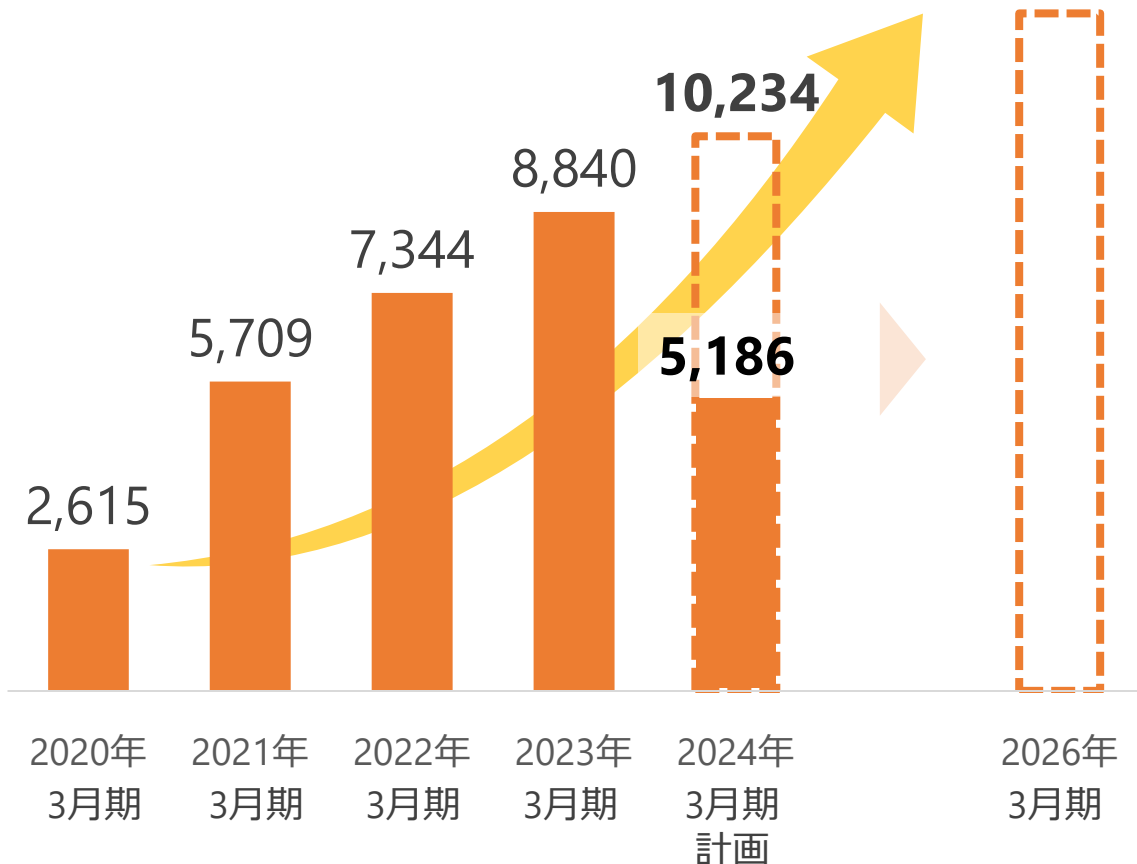
ラインナップを拡充し
女性医療に貢献

成長ドライバー レルミナ（レルゴリクス）

レルミナ売上推移

決算ベース(百万円)

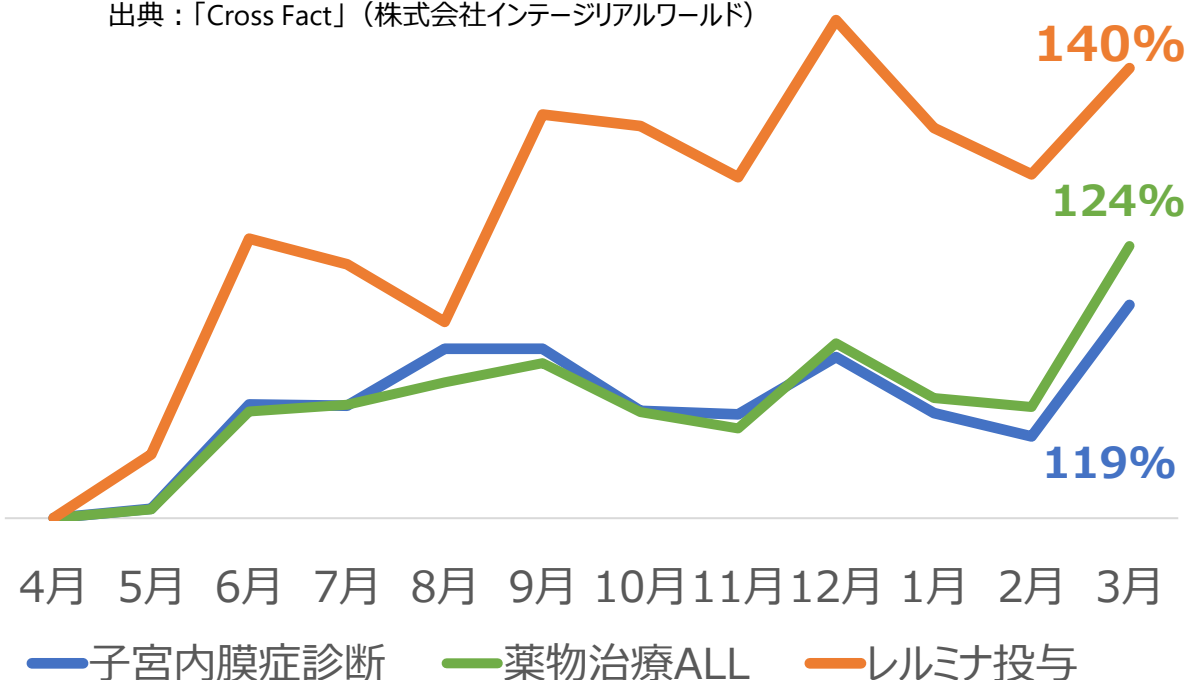
更なる成長を
目指す



【子宮内膜症関連2022年度の伸長率】

2022年4月を100%として算出

出典：「Cross Fact」（株式会社インテジリアルワールド）



子宮内膜症治療において
レルミナの浸透を図る

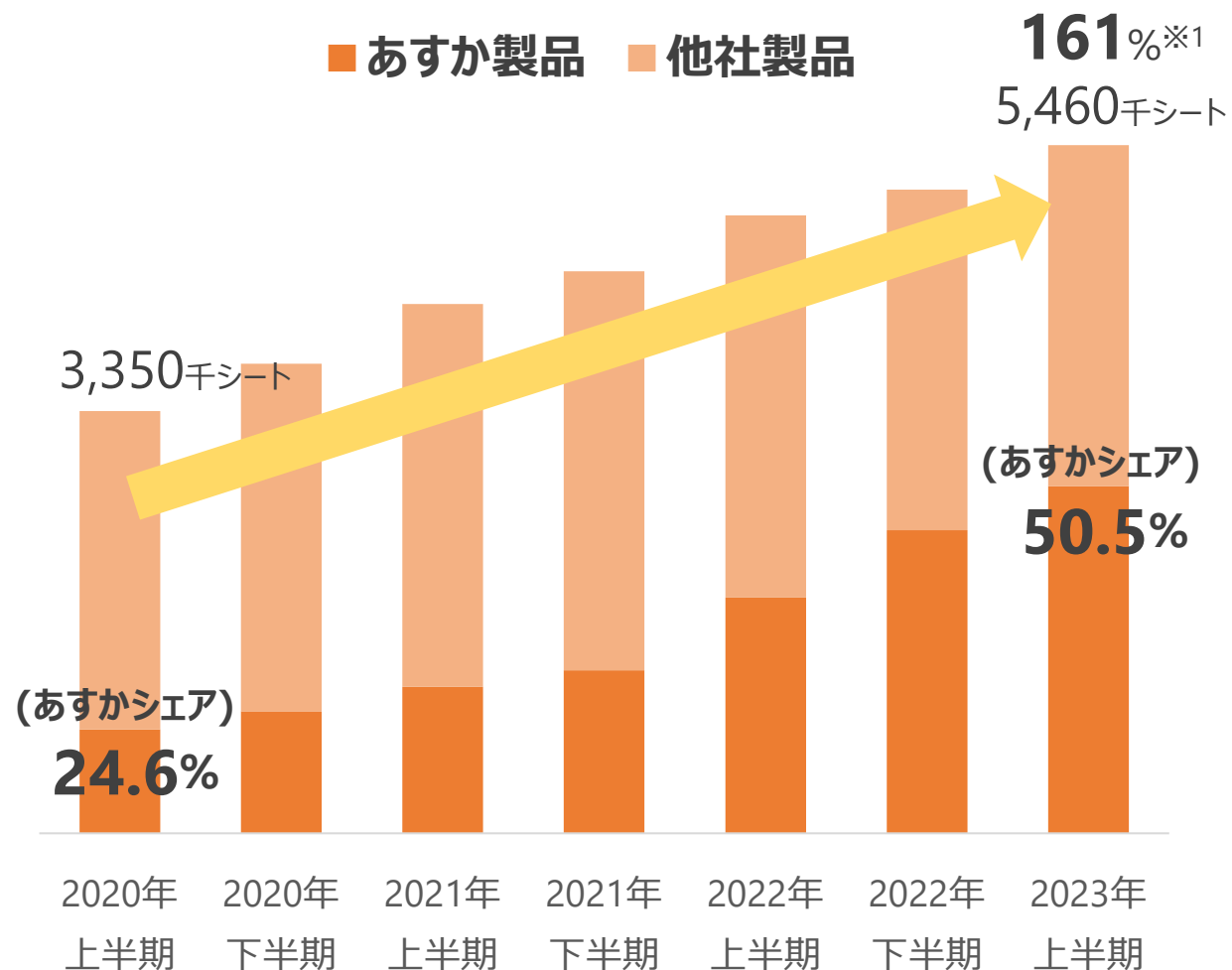
拡大を続けるLEP製剤市場

エンサイスデータに基づく自社集計
無断転載禁止

LEP製剤市場推移

(単位：千シート)

■ あすか製品 ■ 他社製品



あすか製薬のLEP製剤一覧※2

ジェミーナ® 配合錠
フリウェル® 配合錠LD・ULD「あすか」
ドロエチ® 配合錠「あすか」

現在の状況

ジェミーナ、フリウェル

✓ 市場の伸びとともに数量は増加

ドロエチ

✓ 大きく増加し、シェア獲得に貢献

月経困難症治療への貢献

※1 2020年上半期を100%として算出

※2 ジェミーナ配合錠はノーベルファーマ（株）とのコ・プロモーション

フェムテックを活用した医薬周辺領域での貢献

産婦人科領域における治療用アプリの 共同開発及び販売に関する契約を締結



SUSMED

Sustainable Medicine

2023年9月25日

あすか製薬株式会社

サスメド株式会社

各 位

産婦人科領域における治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結

あすか製薬株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：山口 惣大、以下「あすか製薬」）とサスメド株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：上野 太郎、以下「サスメド」）は、産婦人科領域における治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結しました。

**治療用アプリとして開発
保険適用を目指す**

「女性の健康に関する研修動画」 販売開始のお知らせ



2023年9月21日

各 位

～働く人が知っておきたい性のこと～

「女性の健康に関する研修動画」販売開始のお知らせ

当社子会社の[あすか製薬株式会社](#)（本社：東京都港区、代表取締役社長：山口 惣大、以下「あすか製薬」）は、女性のヘルスケアに広く貢献することを目指し、本年4月に「フェムテック事業推進室」を新設しました。

この度、第一弾として「女性の健康に関する研修動画」の販売を開始しますのでお知らせいたします。

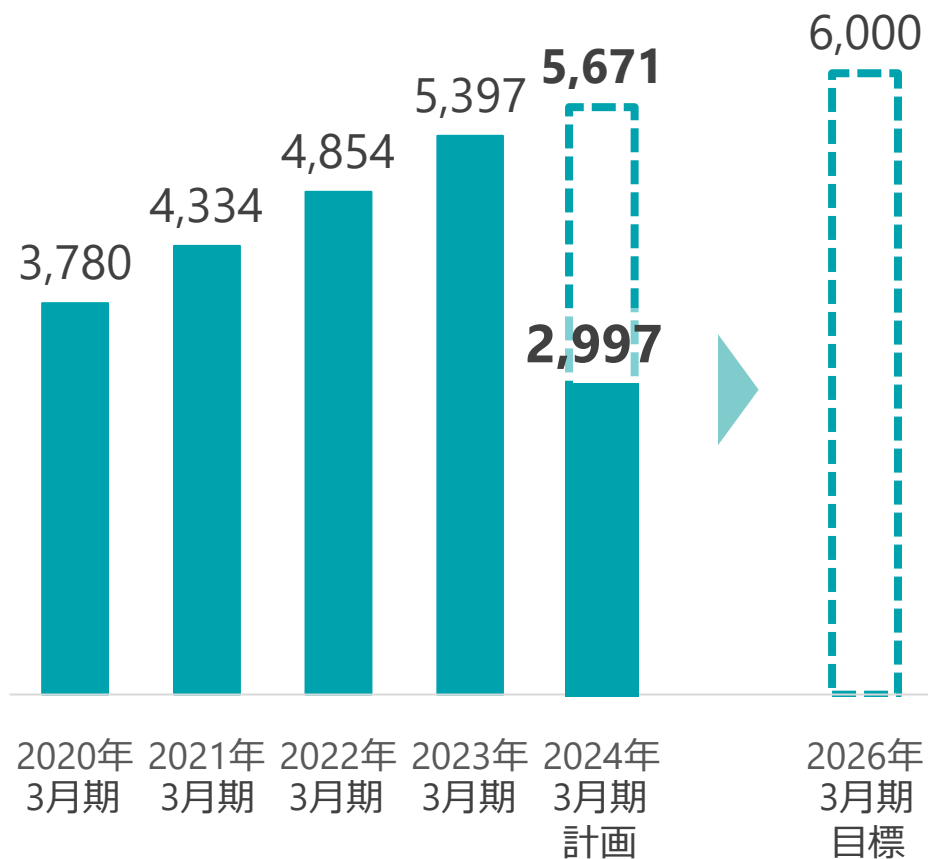
**企業内のヘルスリテラシー向上
健康経営の実現に貢献**

従来の方法に加えて新たな手段で女性の健康課題解決に取り組む

リフキシマによるアンメットメディカルニーズへの貢献

リフキシマ売上推移

決算ベース(百万円)



更なる
成長を見込む

肝硬変診療ガイドライン2020

2020年11月発刊

推奨の強さ：強 エビデンスレベル：A

継続したガイドライン浸透の取り組み

国内エビデンス充実（ガイドラインAnnual Review更新）

※国内長期臨床データ掲載

＜対面とWebの面談による効果的な浸透活動＞

アンメットメディカルニーズへの貢献
肝性脳症小児適応 6月申請

肝性脳症の基本的な治療薬へ



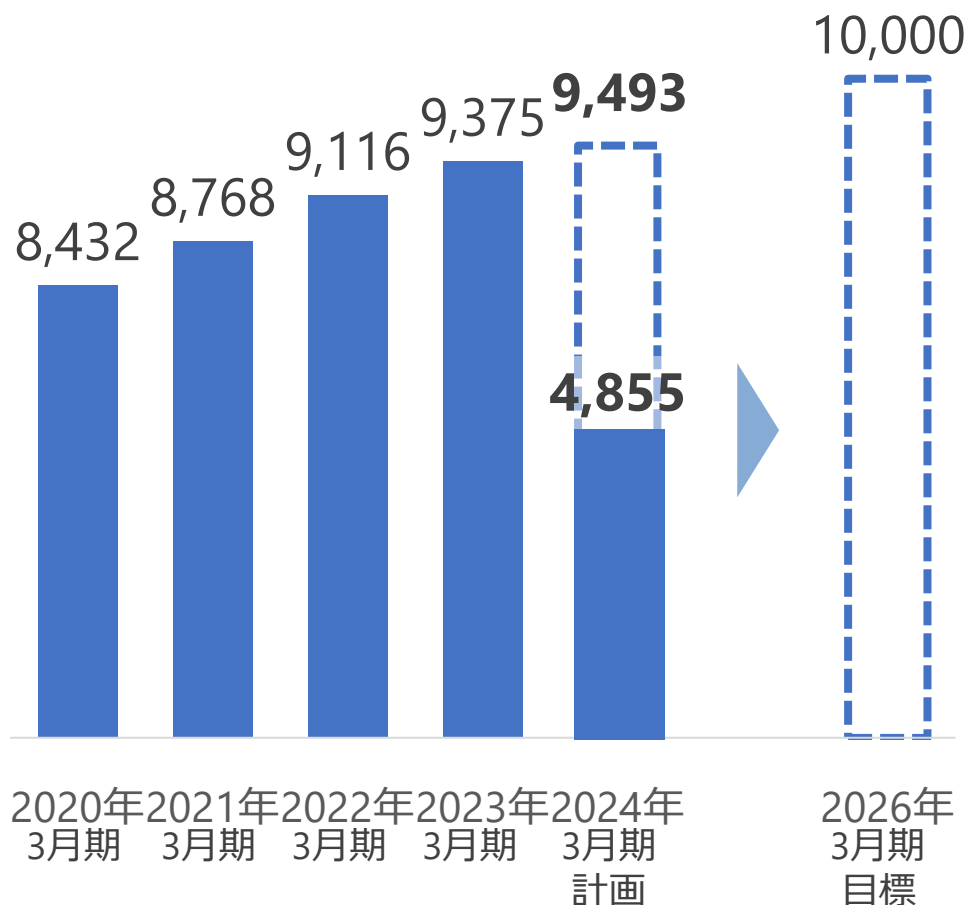
ASKA Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.

甲状腺のリーディングカンパニーとして

甲状腺3製品※の売上推移

決算ベース(百万円)

持続的な
成長を見込む



国内甲状腺製品シェア

95%以上

甲状腺疾患認知の取り組み

- ✓ 甲状腺検査普及の啓発
 - ・健康経営推進企業へ甲状腺検査を提案
 - ・健診センターに対し甲状腺の情報提供を実施

あすか製薬の使命

疾患啓発の推進と治療への貢献
基礎的医薬品として安定供給の維持

※ チラーチン、メルカゾール、プロパジール

あすか製薬株式会社

■ 主な取り組み

- ・スペシャリティ領域
- ・開発パイプライン
- ・海外事業の展開

開発パイプライン

研究開発の状況（2023年11月時点）

 2023年3月期決算説明会からの変更点

開発番号(一般名)／領域・効能	研究※ ¹	非臨床※ ¹	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認
LF111（ドロスピレノン） 避妊	Ph III 実施中						
(オプション契約) PMS/PMDD※ ² 治療薬 レナサイエンスにて開発中	 医師主導Ph II 実施中						
AKP-022（レルゴリクス配合剤） 子宮筋腫	 Ph I / II 実施中						
テーマA / 産婦人科領域							
テーマB / 産婦人科領域							
TRM-270（癒着防止材） 消化器領域・産婦人科領域	Ph III 実施中						
L-105（リファキシミン） 肝性脳症（小児）						 申請	
テーマC / 内科領域							
AKP-009（ルダテロン酢酸エステル） 前立腺肥大症	Ph II a 終了※ ³						
AKP-017（テストステロン経鼻剤）	開発準備中						
AKP-021（mPGES-1阻害剤）							

※¹ 研究、非臨床のため詳細は非開示 ※² 月経前症候群/月経前不快気分障害
※³ 追加Ph I の結果を受けデータを再確認するために再度Ph I 試験を実施中です

開発パイプライン 特徴まとめ

✓ LF111

プロゲステロン単剤の経口避妊剤。**血栓症のリスク低減を期待**して開発中。

✓ AKP-022

レルゴリクスにエストロゲンとプロゲステロンを配合。**6か月以上の長期投与が可能となることを期待**して開発中。

✓ TRM-270

腹腔鏡下手術やロボット支援下手術でのハンドリングを重視した**操作性が良好な癒着防止材となることを期待**して開発中。

あすか製薬株式会社

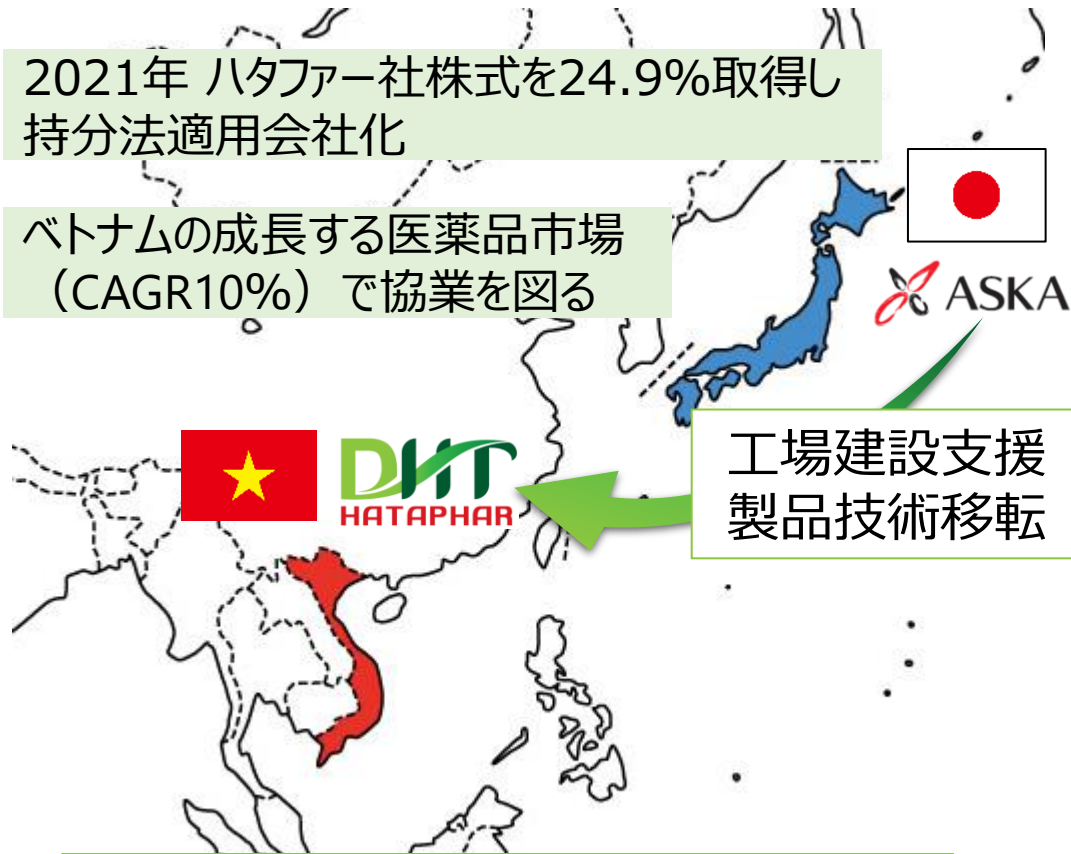
■ 主な取り組み

- ・スペシャリティ領域
- ・開発パイプライン
- ・海外事業の展開

ベトナム ハタファース社との協業

2021年 ハタファース社株式を24.9%取得し
持分法適用会社化

ベトナムの成長する医薬品市場
(CAGR10%) で協業を図る



ベトナム市場シェア拡大
アジア地域への進出を目指す

新工場（PIC/S GMPに準拠）の状況

- 商用生産開始に向けGMP取得の準備を開始
- 9月にあすかより新工場の責任者を派遣
- 出向者を2名→5名に増員

工場稼働に向けた支援を強化

協業の深化

- 更なる財務の取り込みによる提携強化を目指す

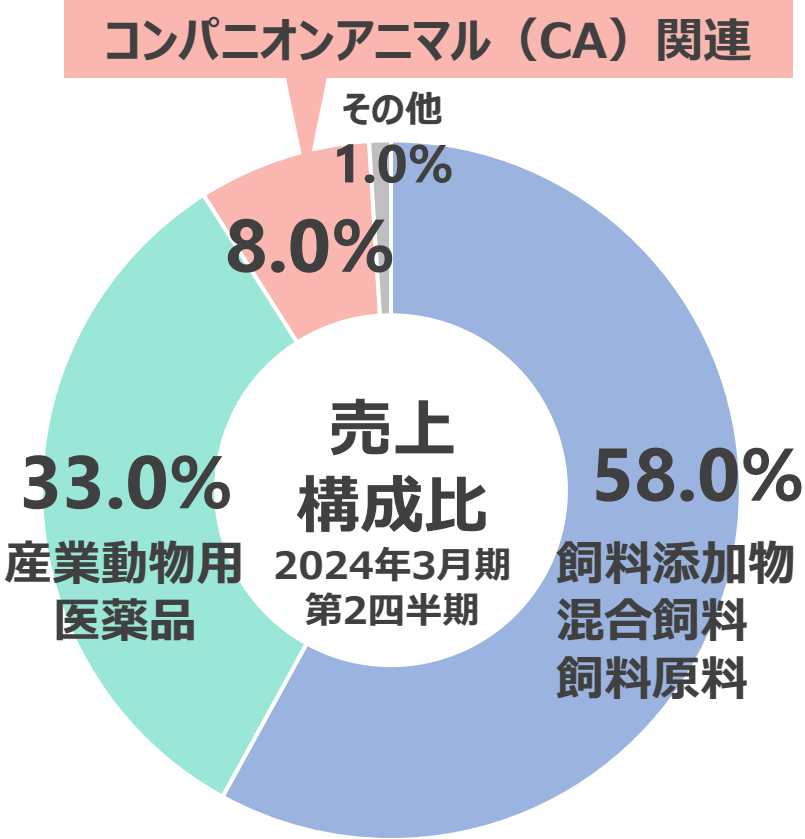
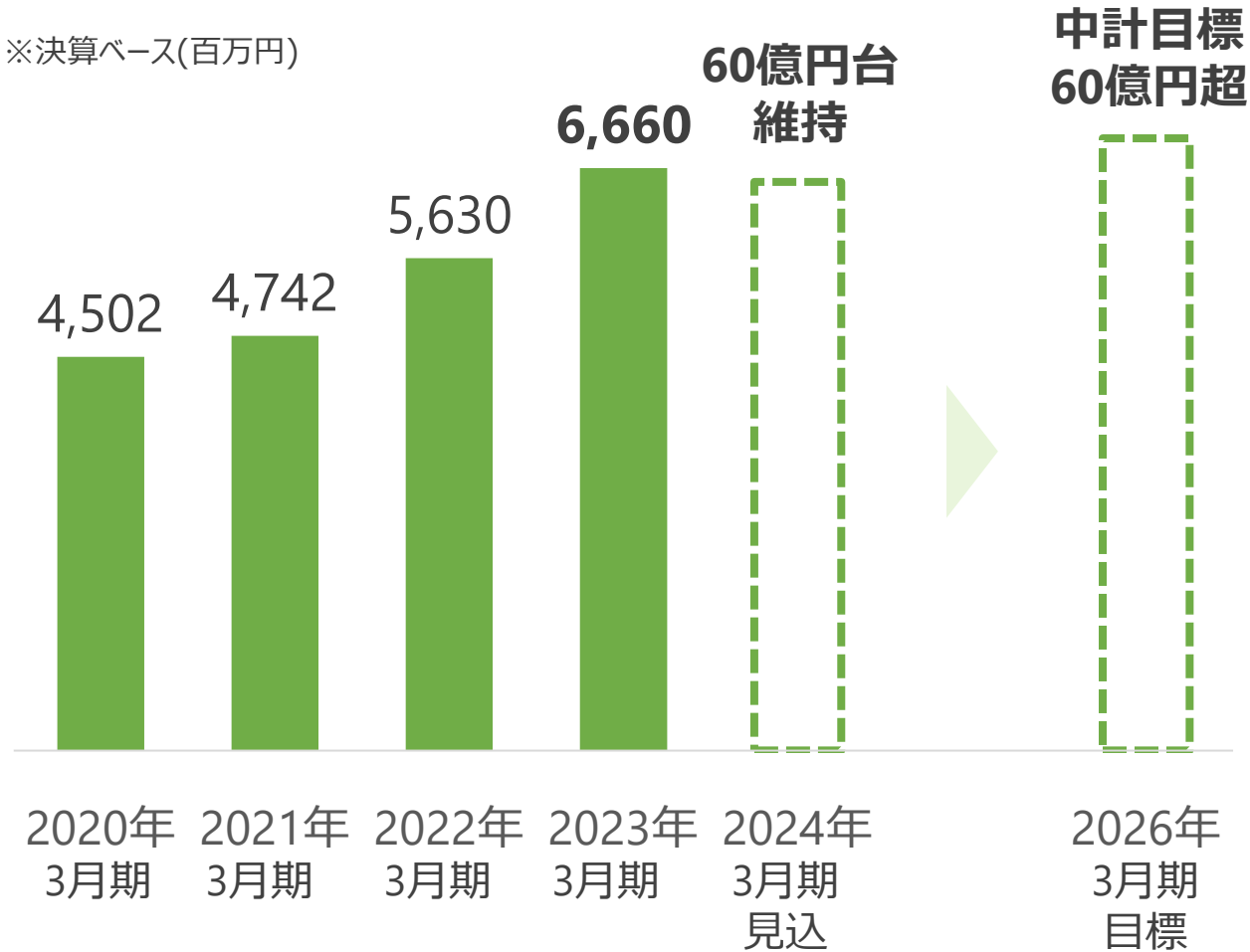
両社のさらなる成長と企業価値向上を目指す

あすかアニマルヘルス株式会社

あすかアニマルヘルス 今期計画と売上構成比

あすかアニマルヘルス売上推移

※決算ベース(百万円)



コンパニオンアニマル (CA) 用
医薬品の浸透・開発を推進

あすかアニマルヘルス 状況と取り組み

下期重点取り組み

利益率改善に向けて動物用医薬品などの製品に注力した営業活動を展開

- 昨年11月に発売した犬・副腎皮質機能亢進症治療剤トリロスタン錠「あすか」に注力
- 学会展示、Webセミナーなどを継続実施することでトリロスタン錠「あすか」の浸透を図る
- 水産養殖向け飼料 塩酸L-ヒスチジンの上市準備（11月発売予定）

飼料添加物の見通し

- 飼料添加物の相場は下げ止まりと見られる状況だが、先行きは不透明

人と動物が共生できる社会づくりに貢献する

株式会社あすか製薬メディカル

あすか製薬メディカル 重点取り組み

あすか製薬メディカルの強み 内因性ホルモン微量分析技術

重点取り組み 非侵襲性検査事業の拡大

2023年4月発売
【対象】 男性更年期



【製品名】
毛髪ホルモン量測定キット
テストステロン

2023年7月発売
【対象】 ストレス



【製品名】
ストレスホルモン量測定キット
コルチゾール

【開発中】

コンパニオンアニマル用
検査キット

2024年度発売予定

最新の測定技術を通して豊かな健康社会づくりに貢献する

あすか製薬ホールディングスグループの強み

成長の源泉

内分泌の研究・開発に長年に
わたり特化し

100年超

多種多様な製品を開発・発売

あすか製薬

産婦人科領域

リーディングカンパニー

産婦人科領域売上No. 1※

※自社推計：2023年3月期 下期

あすか製薬

甲状腺領域

リーディングカンパニー

国内甲状腺製品シェア95%

あすかアニマルヘルス

製品ラインナップ

飼料添加物

産業動物用医薬品

コンパニオンアニマル用医薬品

様々な製品を発売

あすか製薬メディカル

分析技術

内因性ホルモン微量分析

非侵襲性検査事業の拡大

あすか製薬ホールディングス

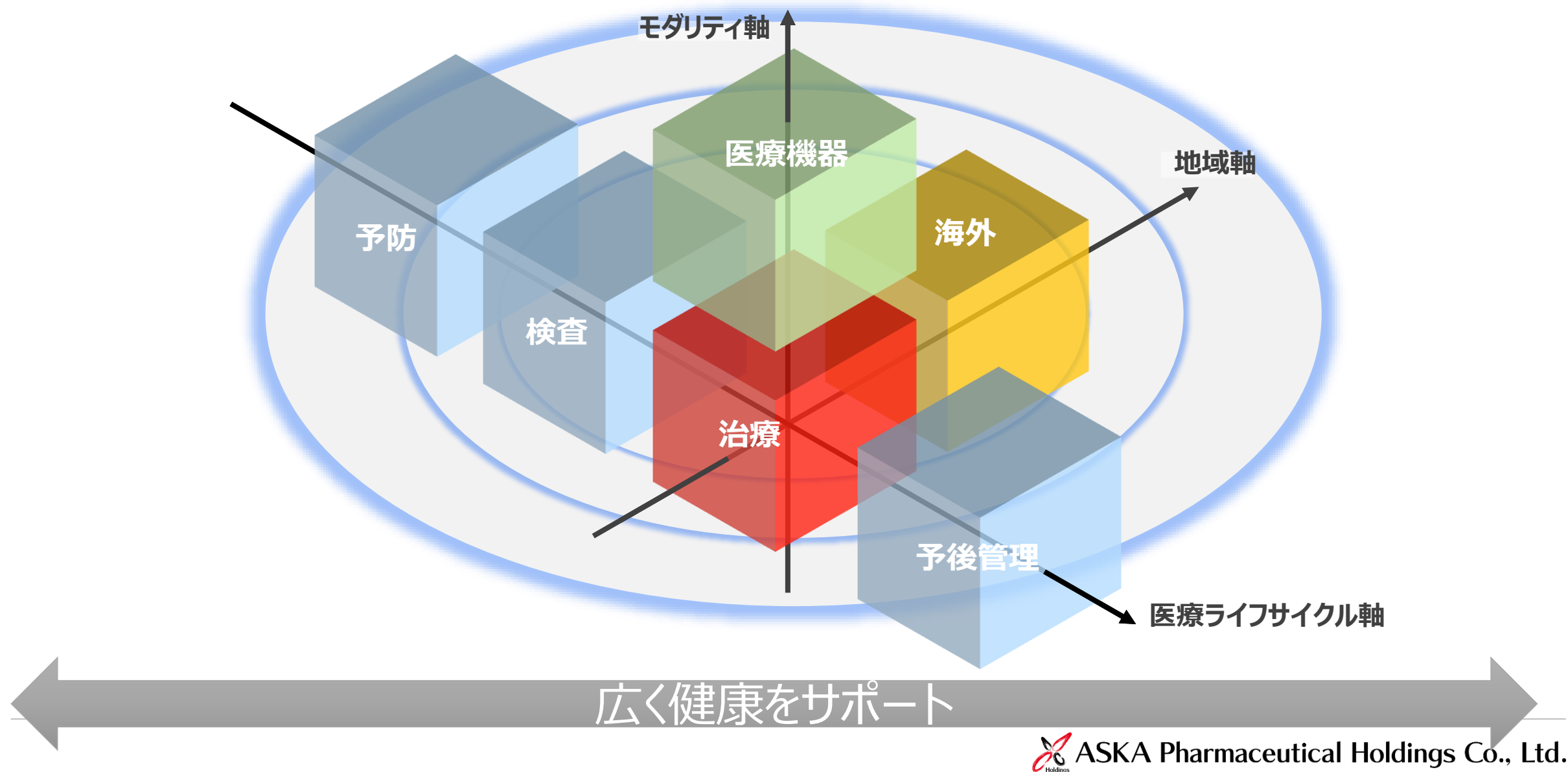
シナジーの創出

グループ間連携の深化

各分野での連携・協業



スペシャリティファーマを基盤とするトータルヘルスケアカンパニーを目指す



あすか製薬ホールディングスグループ
コーポレートメッセージ

あすも、みらいも、すこやかに

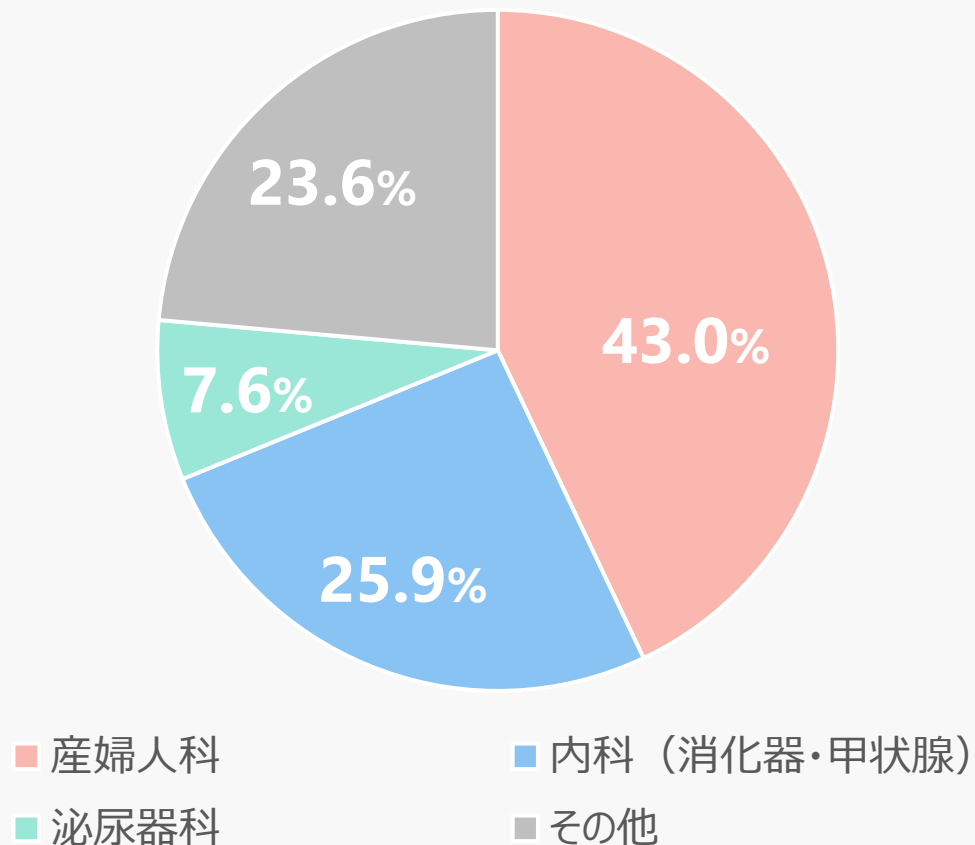


あすか製薬ホールディングス株式会社

参考情報

領域別売上高比率と先発品・GE品売上高比率

領域別売上高比率 (2024年3月期第2四半期)

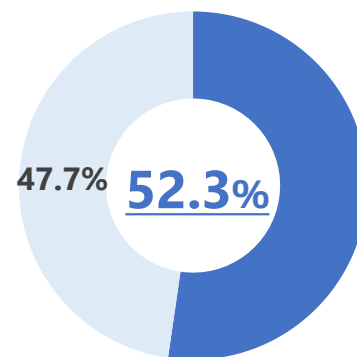


小数点以下第2位を四捨五入しているため合計しても100にならない場合があります

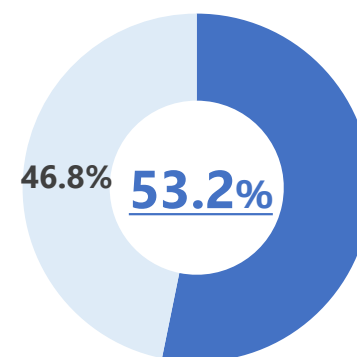
先発品・GE品売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

2023年3月期
第2四半期



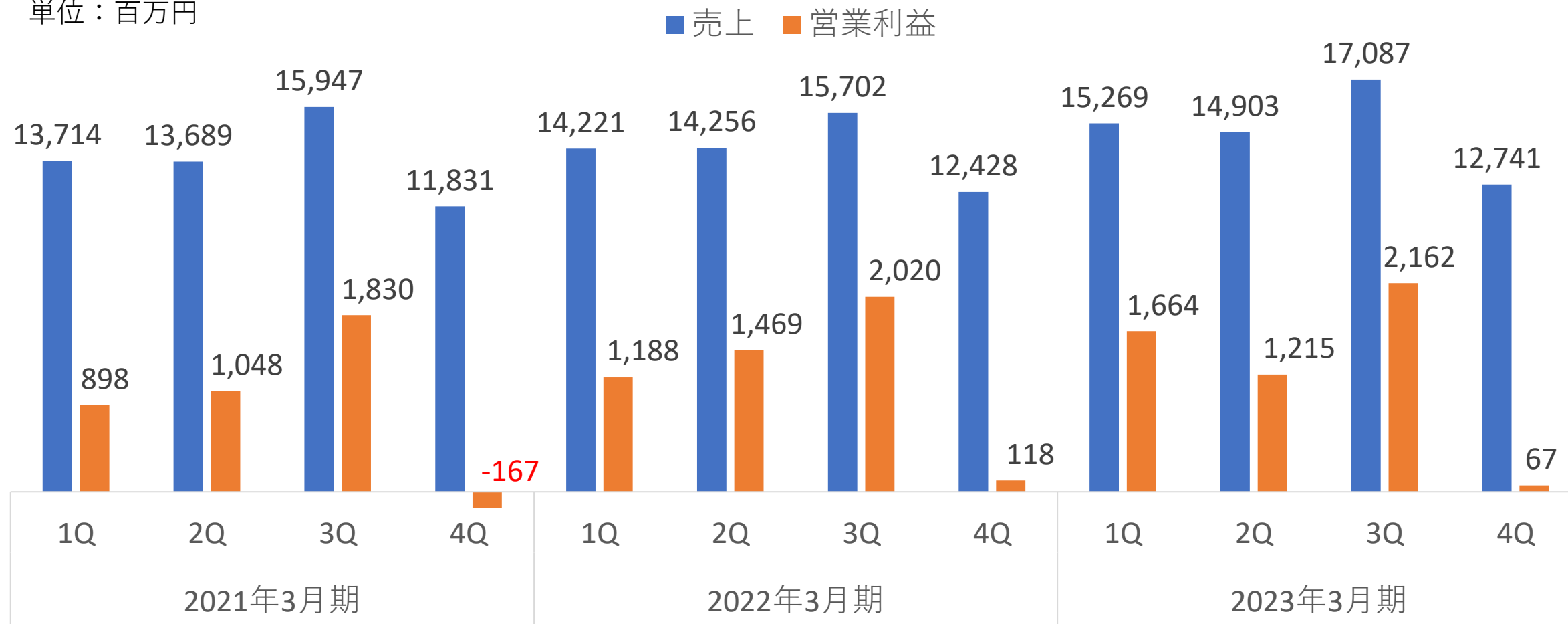
2024年3月期
第2四半期



先発品比率の向上を目指す
(中期経営計画目標数値70%)

期毎の売上、営業利益

単位：百万円



4Qは薬価改定前の買い控えや費用の発生等により売上・利益ともに低い傾向にあります

ライフイベントの変化による月経回数の増加

現代の女性は、昔の女性に比べ初経が早く、晩婚化の傾向にあり出産回数が減少している。
生涯に経験する月経回数が増えたことが、月経困難症等の月経トラブルが増えた要因として考えられている。

現代女性の月経回数

生涯の月経回数：約**450回**

生涯の出産回数：約**2回**

現代女性の月経期間

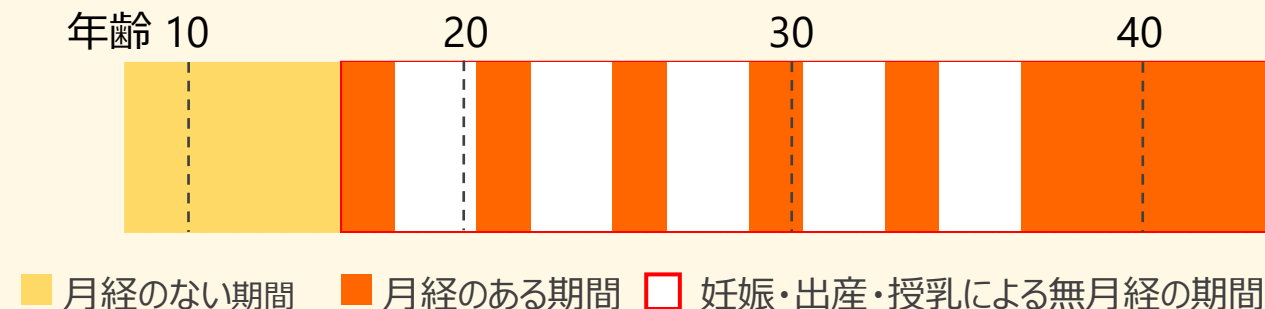


昔の女性の月経回数

生涯の月経回数：約**50回**

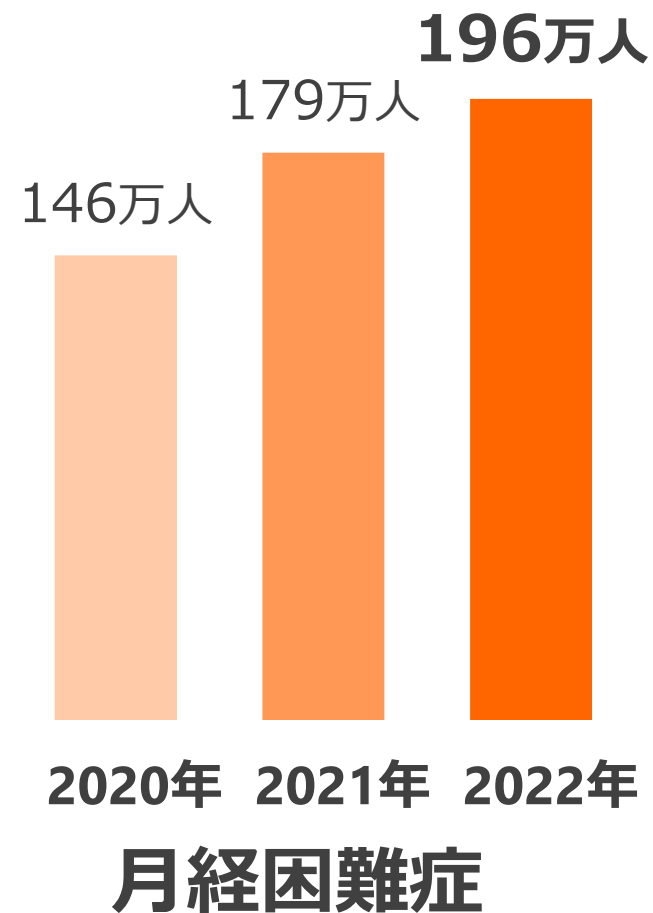
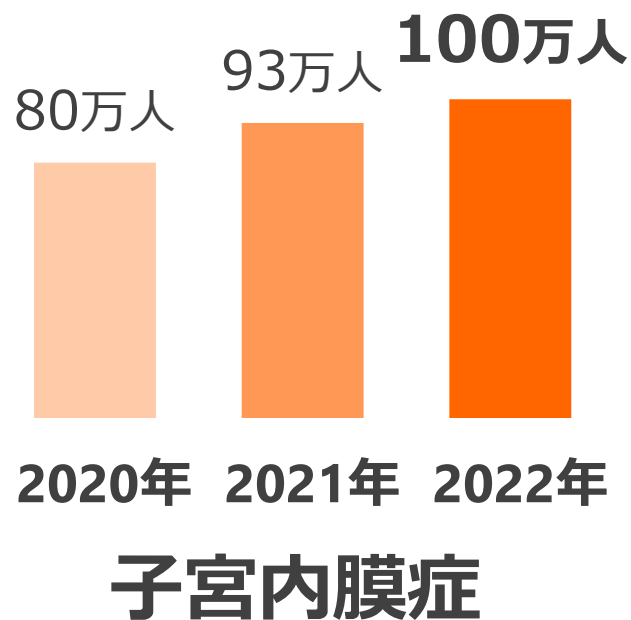
生涯の出産回数：約**5回**

昔の女性の月経期間



子宮筋腫・子宮内膜症・月経困難症の患者推移

(電子レセプトデータからの拡大推計値、各年1月～12月までの12か月間)



Hataphar (ハタファー) 社の概要

商号：Ha Tay Pharmaceutical, J. S. C.

創業：1965年

本社：ベトナム ハノイ市

従業員：約1000名

上場：ハノイ証券取引所（2008年）

2022年度 売上高：1,837十億VND（11,223百万円）

2022年度 営業利益：114十億VND（855百万円）

2022年度 純利益：98十億VND（599百万円）

事業内容：医療用医薬品、一般医薬品、健康食品等の製造販売、輸入販売等

2022年度売上高はベトナム製薬企業第3位

主要都市に支店などを有し、流通販売はベトナム全土をカバー



あすか製薬ホールディングスのマテリアリティ

経営理念：人々の健康と明日の社会に貢献する

環境

- ・環境の保護と環境負荷の継続的提言

ガバナンス

- ・コーポレート・ガバナンス
- ・法令遵守とコンプライアンスの徹底

スペシャリティファーマを基盤とする
トータルヘルスケアカンパニーを目指す



当社が貢献していくSDGs

社会

- ・女性の健康への貢献
- ・アニマルヘルスへの貢献
- ・人材育成
- ・従業員エンゲージメント
- ・革新的な製品の創出
- ・高品質な製品の安定供給
- ・製品の品質と安全性確保
- ・製品の適正使用推進

特定した17項目のマテリアリティを精査し11項目に集約

お問い合わせ先

グループ経営企画部

Tel : 03 - 5484 - 8366

e-mail : kouhou@aska-pharma.co.jp